

ピカソ館



ピカソ館は、20世紀を代表するスペインの芸術家パブロ・ピカソの作品を専門に紹介するために、1984年に開館しました。以来、陶芸を中心とした319点のピカソ・コレクションを順次公開しています。今回のリニューアルでは内装を一新し、観賞しやすい展示環境を整えました。そして、リニューアル後のピカソ館では、テーマ展示「ピカソの挑戦～かたちの変貌～」を開催。絵画、陶芸、彫刻など様々な素材や手法で“形”に挑んだ創作活動を、ピカソが残した言葉とあわせて紹介します。新しくなった展示室で、ピカソ・コレクションの数々をご堪能ください。

本館ギャラリー

開館50年の歩み

「名作コレクション」展

2019～

彫刻の森美術館は、日本で初めての野外美術館として多くの皆様に親しまれ、令和元年8月1日に開館50周年を迎えました。この間に収集された作品は2,000点あまりにおよびます。今回はそのコレクションの中から近・現代彫刻の優品を選び、またルノワールやシャガールといった名画を、開館当初からそのままの姿をとどめる本館ギャラリーに展示します。

野外とは趣の異なる静謐な雰囲気の中で、じっくりと作品をご鑑賞いただけます。



丸太広場 キトキ (KI TO KI)



箱根の間伐材を使った、休憩スペースができました。

無垢材の触りたくなる質感や迫力を感じられる、彫刻素材である木の空間です。

大きな丸太は置かれ方によって、テーブルにもベンチにもなります。空間自体がひとつの彫刻のように見え、室内にいながらも自然を感じられます。

木のぬくもりを感じながら、ゆっくりとお過ごしください。

マルチホール



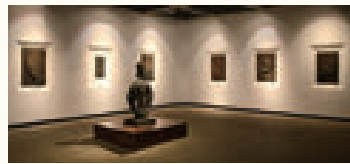
彫刻スタジオへ、ようこそ！

彫刻ができるまでには、作家のいろいろな思いや制作の過程があります。身のまわりのちょっとした出来事や気づきから、作品が生まれることもあります。

彫刻をより良く理解するために、このスタジオでは、そうしたヒントやアイデア、試み、制作の手順、模型や素描から作品へと移り変わる様子などを紹介します。

マンズールーム

イタリアの彫刻家ジャコモ・マンズーの「死の扉」習作12点を常設展示しています。



アートホール

よりみち美術館 ～みんなで挑戦、ちょうこくクイズ～

彫刻の森美術館は、1969年に日本で初めての野外美術館として開館しました。庭園を散策しながら、自然と彫刻の調和を楽しむことが特徴です。作品には作者のさまざまな思いや考え、経験が込められています。作家の表現として誕生した彫刻は、ひとつの言語、一種の伝達手段といえるでしょう。

今回の展示では、コレクションの中から、石や木、金属といった伝統的な素材で作られた彫刻を紹介します。そして、作品の内容をクイズとイラストで表しています。答えを見つけて作者の意図に近づきながら、彫刻の世界にお立ち寄りください。

